

ご利用の皆さまへ

ほくほく線 運賃改定について

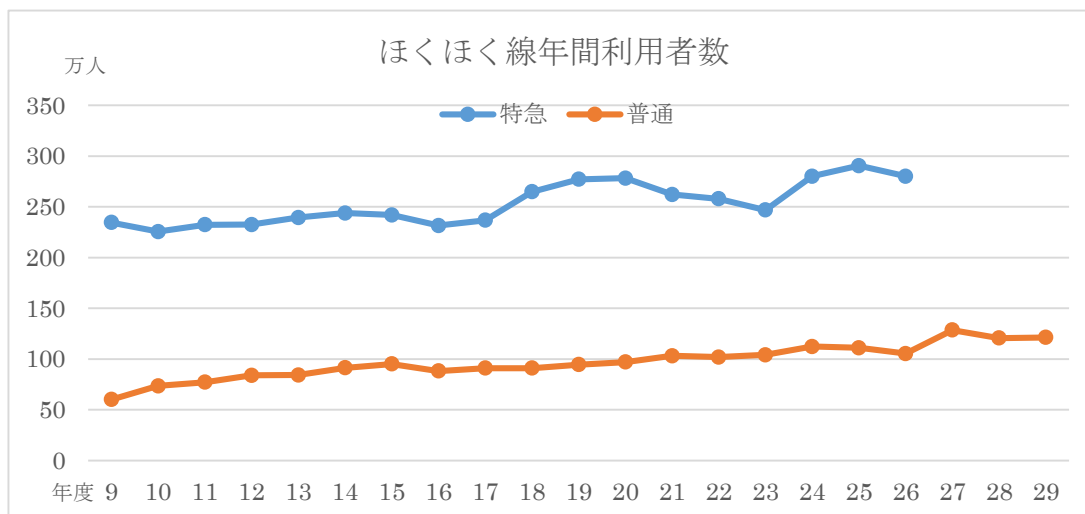
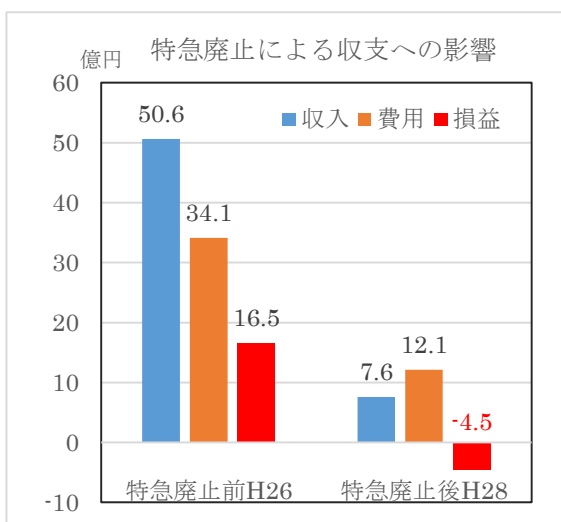
日頃よりほくほく線をご利用いただきましてありがとうございます。

ほくほく線では平成30年5月29日に北陸信越運輸局へ運賃の変更認可申請を行いました。これは普通運賃（回数券を含む）と通勤定期を10%相当値上げする内容となっております。認可されれば今年12月に運賃改定を実施する予定です。ご利用いただいている皆様にはご負担をおかけいたしますが、永続的に鉄道を走らせていくために実施させていただきたいと考えておりますので、何卒、ご理解をお願い申し上げます。

1. 特急廃止による収支への影響

平成9年3月のほくほく線開業時には越後湯沢～金沢間を運行するスーパー特急「はくたか」をJRと共同で運行しました。上越新幹線を乗り継ぐことにより首都圏と北陸地方を結ぶ「はくたか」は予想を上回るご利用をいただき、安定した経営を持続することができました。そしてこの間の利益を将来のために積み立て続けてきました。

平成27年3月に北陸新幹線が開業して運賃収入の9割以上を占めていた「はくたか」が廃止となり、ローカル列車のみの経営となったため、経営は大きく悪化しました。現在は、これまでの利益積立金により運行を継続しているものの、毎年の赤字と将来老朽化していく設備の取替を考慮すると、積立金が枯渇してしまうのもそう遠くはない時期となってしまいます。



2. 自助努力と支援策

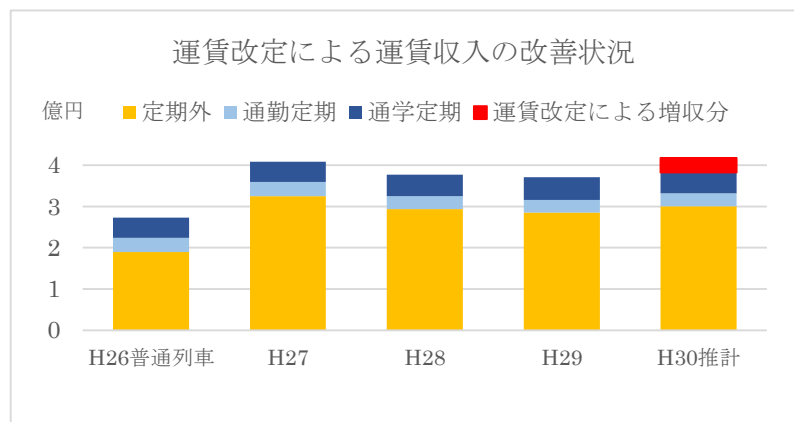
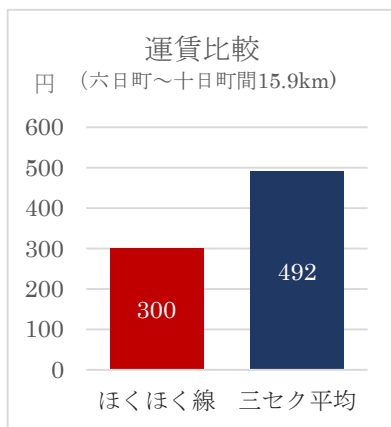
ローカル線のための厳しい経営を行っていただくために、ほくほく線ではコスト削減を行いました。これまでの安全性や利便性は確保しながら、特急がなくなったことで過大となってしまう設備や要員をスリム化しました。次に、ほくほく線の特徴である“速いローカル線”を活かした超快速列車のデビューや“笑顔になれる鉄道”を目指した様々なイベント列車を運行して収益の確保に努めました。全国の地方鉄道の利用者数が大きく減少していく中では、稀有な鉄道として注目されることもありましたが、経営を安定させるレベルまでには及びませんでした。

こうした状況を改善するため、平成28年度から鉄道の安全輸送設備を整備する事業に対して補助金をいただいています。国だけでなく、新潟県や沿線自治体からもほくほく線への支援策として補助金を支出していただいています。

3. 運賃

ほくほく線の運賃は乗車距離によって決められていますが、開業当初からJRとほぼ同じ水準でした。全国にある他の第三セクター鉄道（注：ほくほく線と同じように国鉄再建法に基づいて設立された地方鉄道32社）では厳しい経営環境の下、運賃は今のほくほく線の1.3倍～約2倍になっています。こうした状況を考慮して、10%の運賃改定を行い、経営を改善したいと考えました。

但し、沿線自治体からの要望を受け、子育て支援の観点や通学定期利用者が現在も増加し続けていることを考慮して、通学定期は据置とさせていただきます。



4. 利便性の向上

経営の改善を進める一方で、ご利用いただいている皆さまに対して以下の利便性向上にも努めていきます。

- 隣接する他鉄道への直通運転や乗入を増やして接続を改善します。
- トイレ付新車両を計画より早期に導入してサービス向上を図ります。
- 今までより使い勝手の良いフリーパスを新たに発売します。
- 中学生用通学定期（現行の80%相当の運賃）を新たに導入します。
- 障がい者割引の拡充や団体割引制度の条件緩和を行います。
- 新たなイベント列車を運行して鉄道をより楽しんでいただきます。

以上の考えにより、運賃改定を行うことといたしました。経営改善に向けての自助努力を引き続き継続していきます。また、多くの皆さまに鉄道をご利用いただけるように、さらには鉄道を楽しんでいただけるように努力を重ねていきます。ほくほく線がこの地域の鉄道として永続的に走り続けていくため、皆さまのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

北越急行株式会社

代表取締役社長 渡邊 正幸